

次世代への一言：危機感

危機感が弱いと思います。皆、のんびりしているのではないのでしょうか。

■環境問題

環境問題について、もっと真剣に学び、考えてほしいです。地球の気温が1～2度上がると、凍土が溶けてメタンガスが発生します。このメタンガスはCO₂の21倍も温暖化効果があるのです。

——地球に生かされていると考える。

そうでないと人間の思いあがりが出てきて、のんびりしてしまうのだと思います。

■経済危機

経済的な面で言えば、セルロースナノファイバー（SNF繊維）で作られた車は、重量が鉄の5分の1、強度は鉄の7～8倍です。鉄の売上を当てにしているリサイクル業者は利益確保が厳しくなってくるでしょう。

また、インドでは環境問題に配慮してEV車が主流になる可能性があります。車のボディを20万で作し、モーター・バッテリーはリース契約で車が販売されるのです。もし、メーカーがこれをやりだしたらリサイクル業者は採算が合わなくなってしまいます。

(7)

次世代への一言：これからの経営

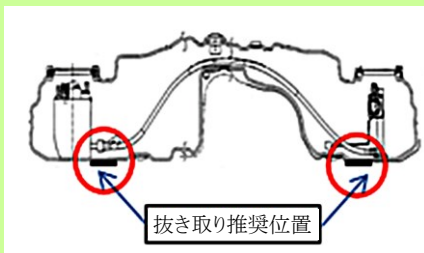
2020年までに儲かる仕組みを作り上げておかないと大きな波に飲み込まれるでしょう。これからは車が減っていくので“下山”経営が必要だと思います。会宝産業としてもリサイクル業務は残しますが、業態を変えていく必要があると考えています。

そして、この環境で生き残るには協調するしかない。協調できない業界はだめなのです。協力すればするほど豊かになる。船の舳をRUMが担ってトライしています。「自分さえよければいい、今さえよければ、お金さえあればいい」は通用しなくなります。例えば、スクラップ問屋と個々の解体業者が交渉するのではなく、全社がまとまって交渉した方が交渉力がつきます。また、同業他者の良い所取りだけではなく、良い業者と協力したらどうかと思います。良い所取りばかりしていると、そうされた優良業者は、同業他社に自社の良い所を見せたくなくなってしまう。自分を隠すのではなく、自分をさらけ出すことが必要なのです。

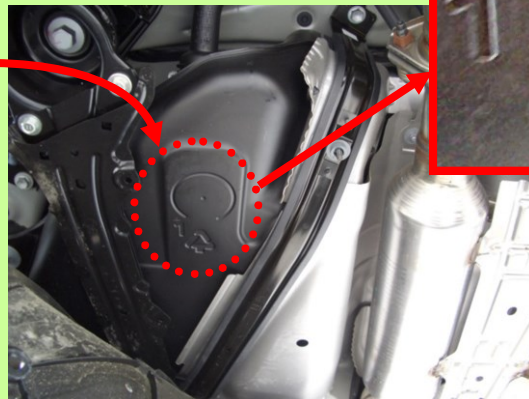
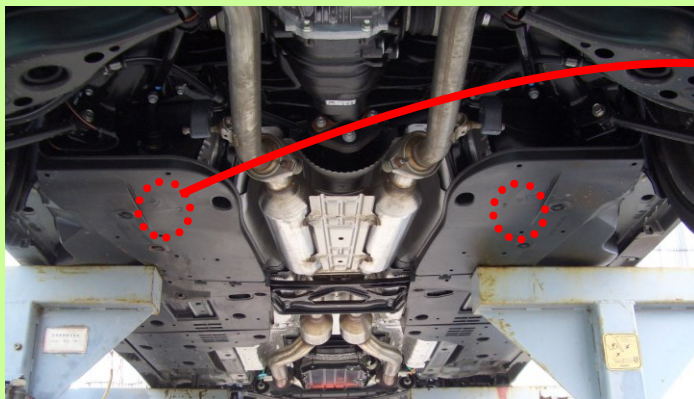
儲かればいいという時代は終わりました。お客様が喜んで来てくれる商売へ転換していく必要があると思います。



～トヨタ自動車株式会社からの易解体設計ミニ情報～



ヴィッツ、クラウン、マークXなど、当社は約20車種のFR車、FFベースの4WD車で燃料タンクに、馬の「くら」の形に似た「くら型タンク」を採用しています。廃車解体時の燃料抜き取り時は、左右片側ずつの抜き取りが必要ですが、燃料タンクとアンダーカバーに抜き取り順序を示す番号を設定しており、1から抜くと残液を早く抜き取ることができますので、是非ご活用ください。



その他、HV電池の取外しマニュアル等も以下のURLに掲載しておりますので、是非ご活用ください。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/environment/recycling_based/proper_disposal/